

(
別添4)

第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(平成30年12月22日記載)

この度は、当法人が運営する障害者支援施設第二明星学園において、第三者評価を実施して頂き、また理念や日々私共が取り組んでいる支援等について、高く評価して頂きましてありがとうございました。

今回初めて受審した第三者評価に当たっては、多岐にわたる項目についての調査となりましたが、その一つ一つを振り返りながら、運営・管理していく上で施設としてのやるべきことを再認識することができました。

私共が思っている以上に高く評価して頂いた部分が多く、その部分については日々取り組んでいる支援に対して自信を持って続けていくこと、また高い評価に恥じないように継続して努力していく謙虚な気持ちも併せ持って取り組んでいきたいと思えます。

一方で足りない部分、改善する必要がある点も浮き彫りになりました。特に情報共有の面で、理念や基本方針という重要な事柄がパート職員まで浸透していなかったり、利用者にも周知されていない状況でした。支援の質を高めるため、職員の負担軽減のために、より多くの職員を雇い、パートも増やし、5年前より職員数が約1.6倍に増えていく中で、人数の多さが周知を困難なものにしていると考えますが、利用者への周知方法も併せて工夫しながら取り組んでいきたいと思えます。

また、地域交流なども含め、福祉施設が有する機能を地域に還元するという面でもまだまだこれからであるという自覚もあり、取り組んでいく必要性を感じています。地域と共にある施設という認識を高めていただくために、地元住民ともっと交流できる仕組みを考え、専門性を活かした相談に気軽に応じ、互いに支え合えるような良い関係を構築していきたい。その第一歩として、災害時に地元住民の避難場所として活用して頂けるよう整備を進めていきます。更には、日常的に事業所の空いているスペースを利用し、スポーツ・サークル活動をして頂けるよう提供していきたいと考えています。

利用者の地域生活への移行の面においても、明星ランドデザイン(10年構想)を策定し、地域移行に向け取り組み始めたばかりですが、ハード面を整備しながら、同時に利用者に対し地域生活への移行や地域生活への意欲を高めるような支援をし、希望や意向を尊重した地域生活が送れるような支援を提供していきたいと思えます。

利用者調査では、利用者が感じる不満というものを教えて頂きました。今後、利用者満足して頂けるように、不満の一つ一つを取り除いていくことや、職場環境を見直しながら職員が長く働ける職場として定着すること、また、地域の方々と互いに支え合える関係を構築することで、私共が目指す、法人の理念でもある「みんな幸せになりたい あなたも私も」に近づいていけるものと信じています。今回の第三者評価は、より良い施設を目指していくための道しるべだったと感じています。

この度は、有意義な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

社会福祉法人明星会
第二明星学園
園長 宮下 智